

今後の天候について

2014/7/18

株式会社ウェザーマップ

107-0052 東京都港区赤坂5-4-9 いちご赤坂五丁目ビル6F

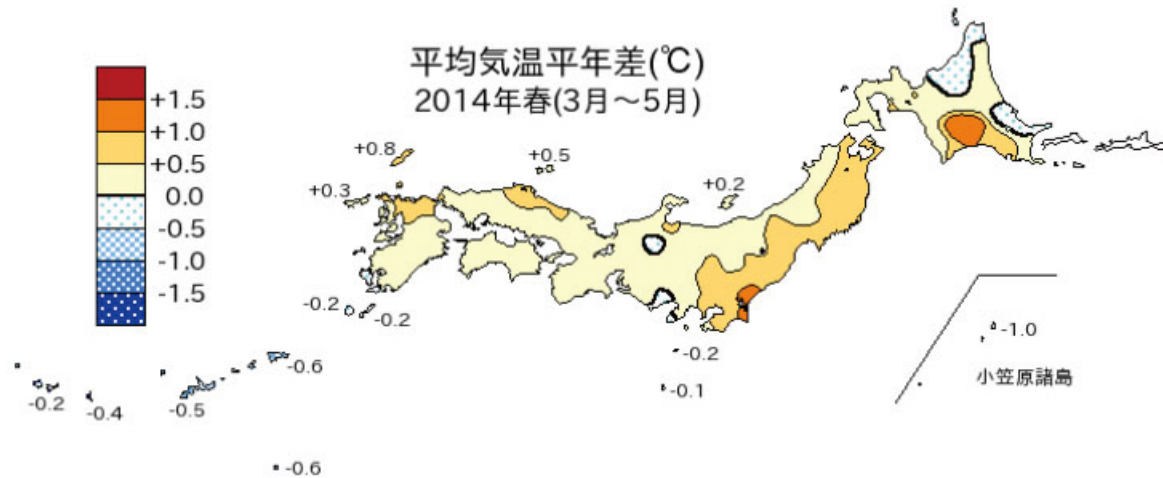
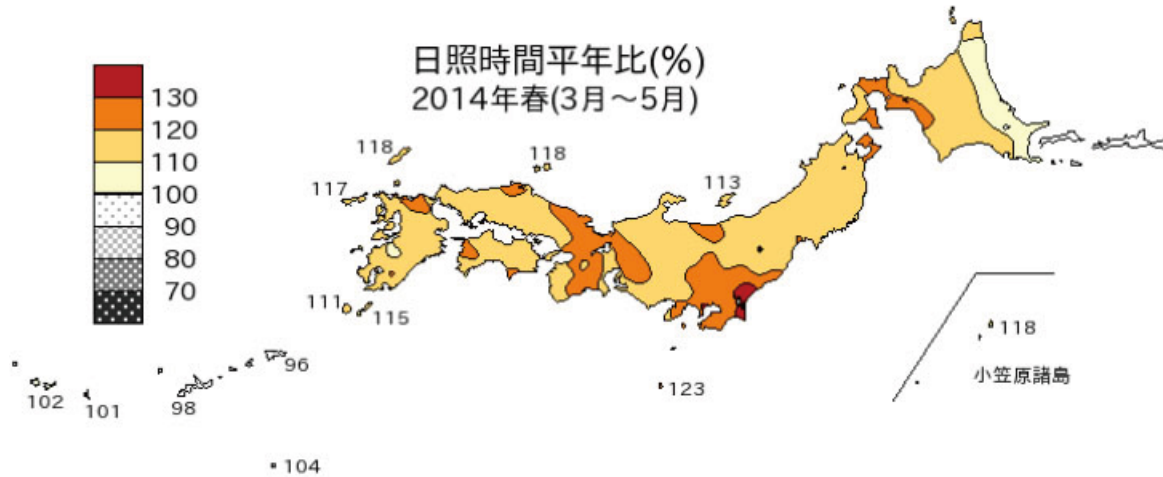
TEL:03-3224-1785/FAX:03-3224-1786

<http://www.weathermap.co.jp/>





今春のまとめ





3～5月の天候の特徴

- ・ 北日本から西日本にかけて、日照時間がかなり多かった

北日本から西日本にかけては、期間を通して高気圧に覆われる日が多く、春の日照時間がかなり多かった。東日本、西日本の日本海側では、統計を開始した1946年以降最も多かった。

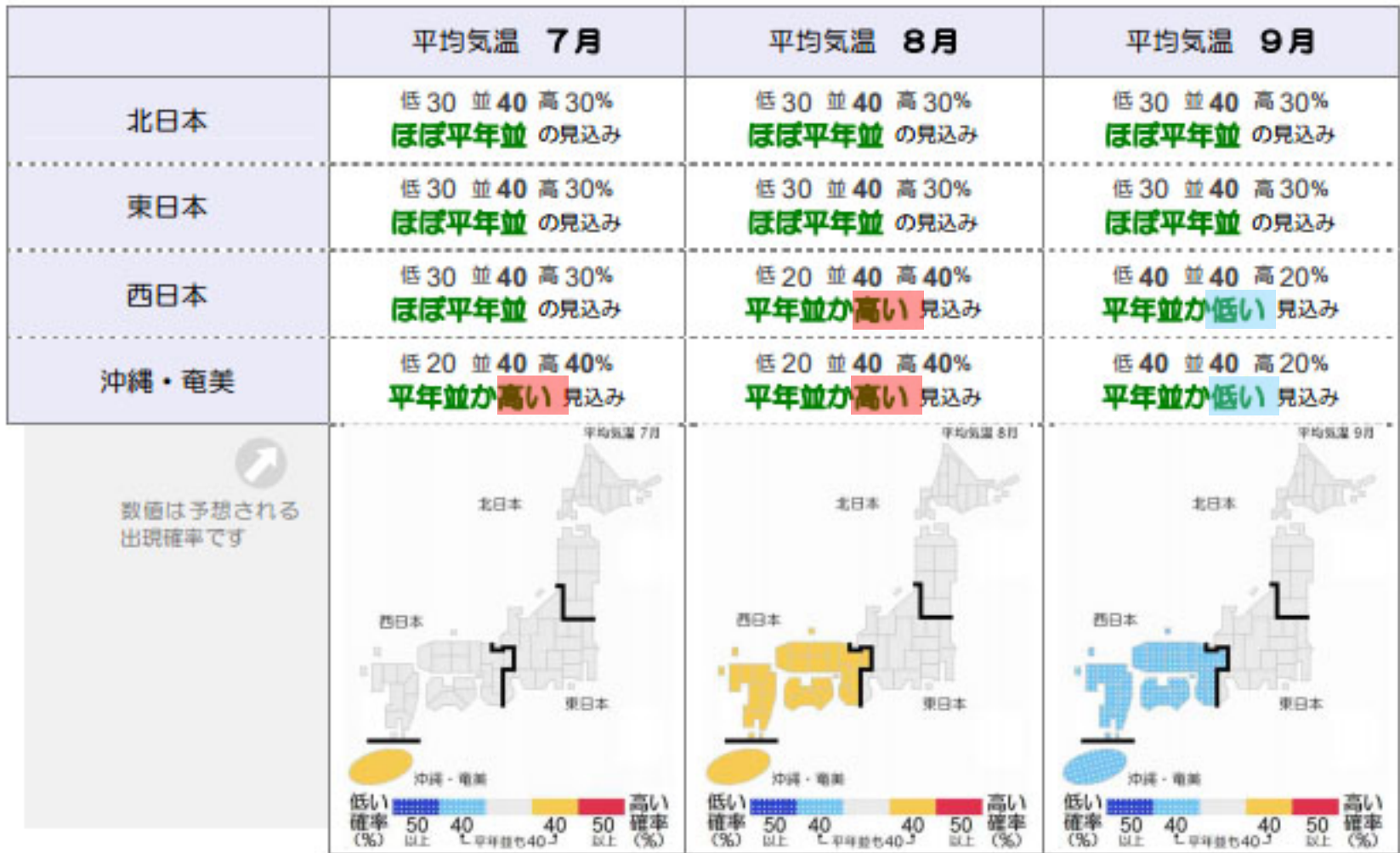
- ・ 気温は、東・西日本で高く、沖縄・奄美で低かった

東・西日本では、寒気が南下し低温となる時期もあったが、3月下旬と5月下旬に南から暖かい空気が流れ込み、気温が平年を大幅に上回ったことなどから、春の平均気温は高かった。





7~9月の予報(平均気温)





7~9月の予報(降水量)

		降水量 7月	降水量 8月	降水量 9月
北日本	日本海側	少 20 並 40 多 40% 平年並が多い 見込み	少 20 並 40 多 40% 平年並が多い 見込み	少 30 並 40 多 30% ほぼ平年並 の見込み
	太平洋側	少 20 並 40 多 40% 平年並が多い 見込み	少 20 並 40 多 40% 平年並が多い 見込み	少 30 並 40 多 30% ほぼ平年並 の見込み
東日本	日本海側	少 20 並 40 多 40% 平年並が多い 見込み	少 30 並 40 多 30% ほぼ平年並 の見込み	少 30 並 40 多 30% ほぼ平年並 の見込み
	太平洋側	少 20 並 40 多 40% 平年並が多い 見込み	少 30 並 40 多 30% ほぼ平年並 の見込み	少 30 並 40 多 30% ほぼ平年並 の見込み
西日本	日本海側	少 20 並 40 多 40% 平年並が多い 見込み	少 40 並 40 多 20% 平年並が少ない 見込み	少 30 並 40 多 30% ほぼ平年並 の見込み
	太平洋側	少 20 並 40 多 40% 平年並が多い 見込み	少 40 並 40 多 20% 平年並が少ない 見込み	少 30 並 40 多 30% ほぼ平年並 の見込み
沖縄・奄美		少 30 並 40 多 30% ほぼ平年並 の見込み	少 40 並 40 多 20% 平年並が少ない 見込み	少 30 並 40 多 30% ほぼ平年並 の見込み

		降水量 7月	降水量 8月	降水量 9月
北日本	日本海側	多	多	多
	太平洋側	多	多	多
東日本	日本海側	多	多	多
	太平洋側	多	多	多
西日本	日本海側	多	少	多
	太平洋側	多	少	多
沖縄・奄美		多	少	多

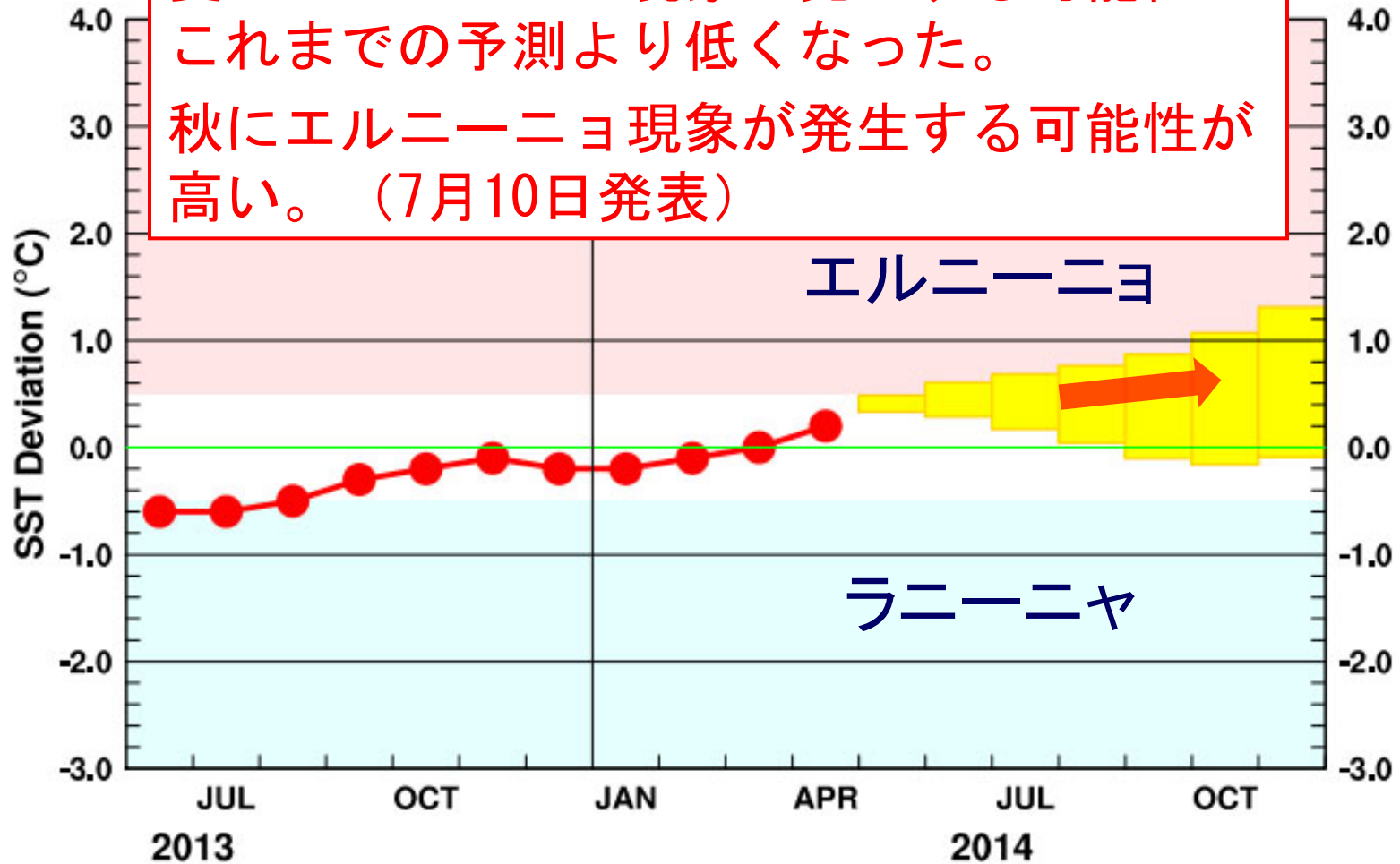
数値は予想される出現確率です

少ない確率(%) 50 40 40 50 多い確率(%)
↑ 平年並(40%)



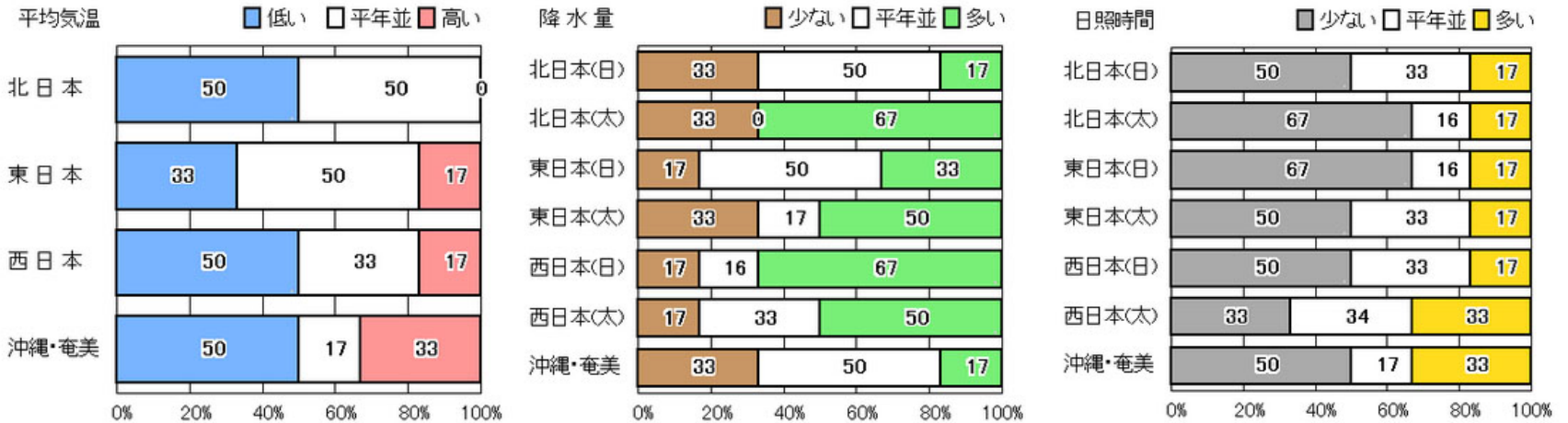
エルニーニョ/ラニーニャ現象の経過と予測(5か月移動平均値)

夏にエルニーニョ現象が発生する可能性はこれまでの予測より低くなった。
秋にエルニーニョ現象が発生する可能性が高い。(7月10日発表)





エルニーニョ現象発生時の7～9月の天候の特徴



エルニーニョ現象発生時の7～9月の天候の特徴(気温、降水量、日照時間)
統計期間:1979年3月～2009年2月。棒グラフ上の数字は出現率を示す。

- 平均気温は、北日本と西日本で低い傾向。
- 降水量は、北日本太平洋側と西日本で多い傾向。
- 日照時間は、北・東日本、西日本の日本海側で少ない傾向。



近年の夏の特徴

最近 10 年間の夏の特徴

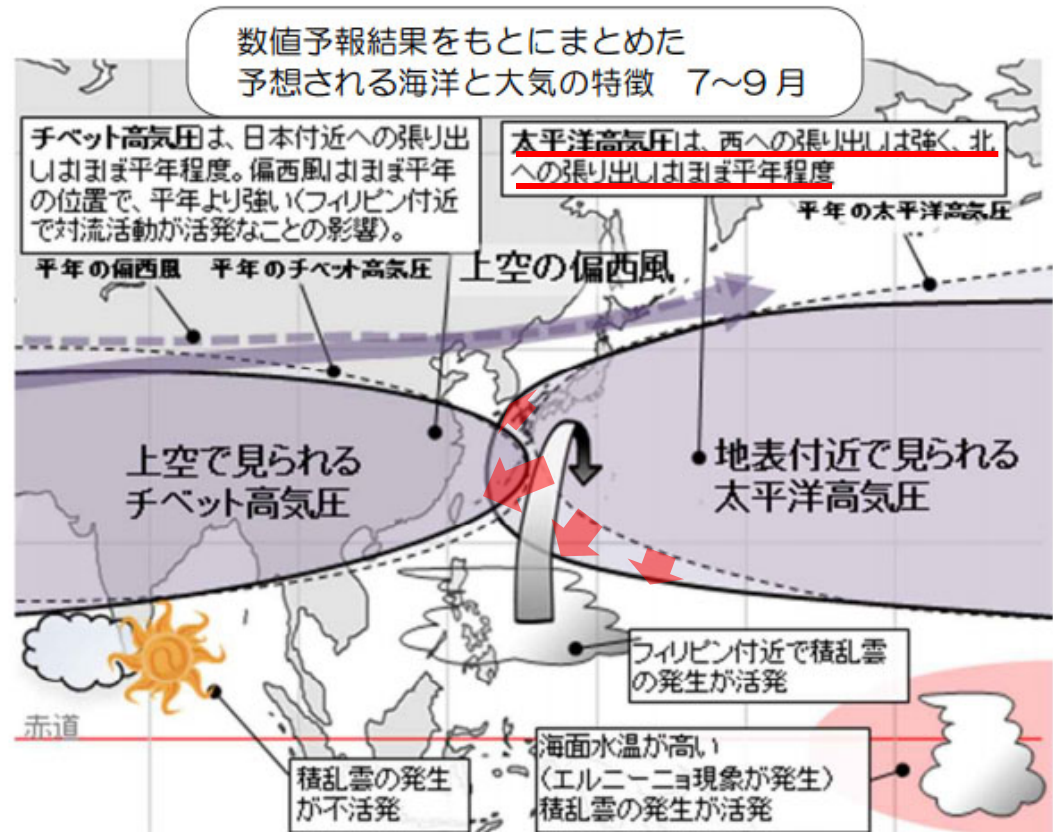
年	夏の平均気温 平年差℃（階級）				夏の天候の特徴
	北日本	東日本	西日本	沖縄・奄美	
2004	0.9(+)	1.0(++)	0.9(++)	-0.1(O)	平成 16 年 7 月新潟・福島豪雨 平成 16 年 7 月福井豪雨 梅雨期少雨
2005	0.7(+)	0.5(+)	0.6(+)	0.0(O)	6 月下旬～7 月上旬に東・西で梅雨前線による大雨
2006	0.4(+)	0.1(O)	0.5(+)	0.2(+)	平成 18 年 7 月豪雨（九州～北陸） 梅雨期多雨傾向
2007	0.6(+)	0.1(O)	0.2(O)	0.4(+)	7 月上～中旬台風第 4 号と梅雨前線で大雨 国内最高気温記録更新
2008	-0.1(O)	0.2(O)	0.3(O)	0.4(+)	梅雨期少雨傾向 平成 20 年 8 月末豪雨
2009	-0.4(O)	-0.2(-)	-0.1(O)	0.2(+)	平成 21 年 7 月中国・九州北部豪雨 中国・北陸・東北梅雨明け不明瞭
2010	2.2(++)	1.5(++)	0.8(+)	0.1(O)	北・東は第 1 位の高温 7 月中旬に九州北部などで豪雨被害
2011	1.0(+)	0.9(+)	0.5(+)	0.3(+)	平成 23 年 7 月新潟・福島豪雨 台風第 12 号で紀伊半島を中心に大雨
2012	0.7(+)	0.6(+)	0.4(+)	0.1(O)	平成 24 年 7 月九州北部豪雨 西日本と沖縄・奄美で多雨・日照不足
2013	1.0(+)	1.1(++)	1.2(++)	0.7(++)	秋田県・岩手県・島根県・山口県で豪雨被害 東日本太平洋側と沖縄・奄美で少雨 国内最高気温記録更新

階級 --：かなり低い -：低い O：平年並 +：高い ++：かなり高い

海洋と大気の特徴(7~9月)

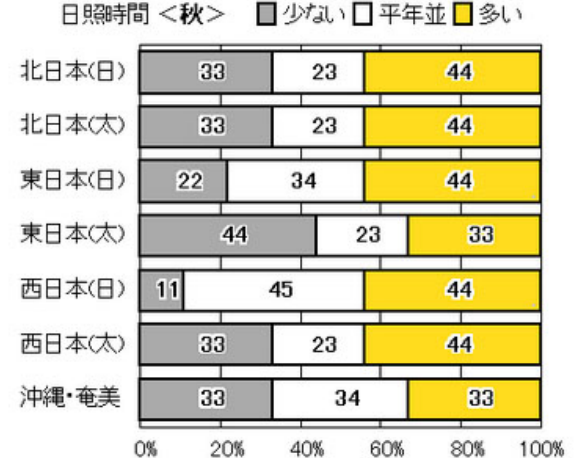
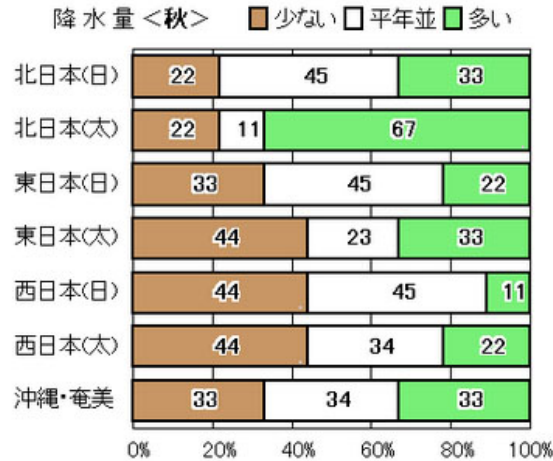
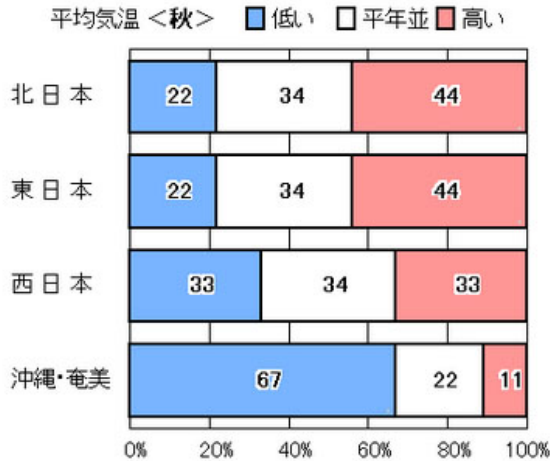
予想される海洋と大気の特徴

- 夏には、エルニーニョ現象が発生する可能性が高くなっています。
- この影響で、熱帯の対流活動（積乱雲の発生）の位置が全般に平年より東へずれ、インド洋西部やインドネシア付近で対流活動が不活発となる見込みです。
- 一方、フィリピン付近では、対流活動が活発となる見込みです。
- その結果、日本付近の偏西風はほぼ平年の位置で強い見込みです。
- また、太平洋高気圧の北への張り出しはほぼ平年程度ですが、日本の南海上では勢力は強いでしょう。
- これらの特徴は夏に明瞭で、9月はフィリピン付近の対流活動は弱まり、偏西風は平年より南寄りを流れる見込みです。





エルニーニョ現象発生時の9~11月の天候の特徴



エルニーニョ現象発生時の秋(9~11月)の天候の特徴(気温、降水量、日照時間)
統計期間:1979年3月~2009年2月。棒グラフ上の数字は出現率を示す。

- 平均気温は、北日本と東日本で高い傾向。
- 降水量は、西日本で少なく、北日本太平洋側では多い傾向。
- 日照時間は、東日本日本海側と西日本日本海側で多い傾向。



まとめ

- エルニーニョ現象の発生は秋にずれ込む見込みで、北日本でも夏は「平年並み」の気温となる可能性が高い。
- 西日本は8月に高温少雨傾向
- 西日本では9月に低温傾向の可能性あり。